

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

事業計画及び成長可能性に関する事項

フィーチャ株式会社（東証グロース4052）

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

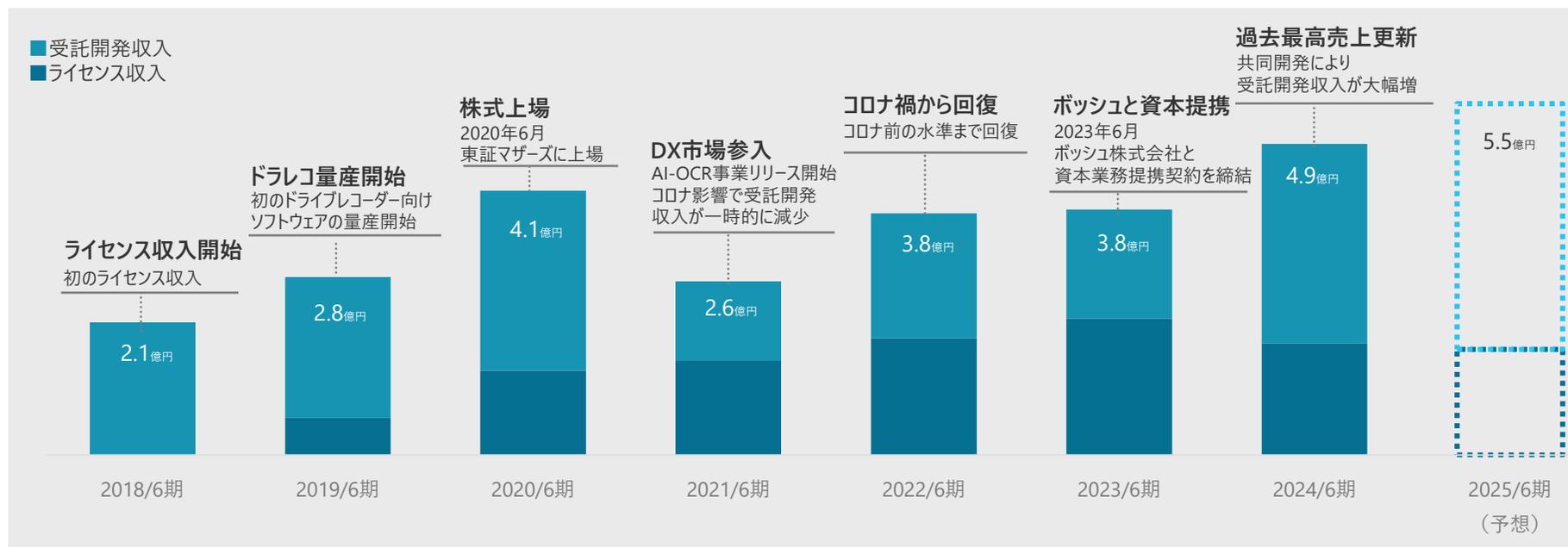
あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

社名	フィーチャ株式会社
代表者	代表取締役社長CEO兼CTO 曹暉
住所	東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 19F
創業年月	2005年8月
資本金	383,506千円 2024年6月末現在
従業員数	45名（非正規 14名） 2024年6月末現在
事業内容	画像認識AIソフトウェア開発及び販売

Make Things Intelligent

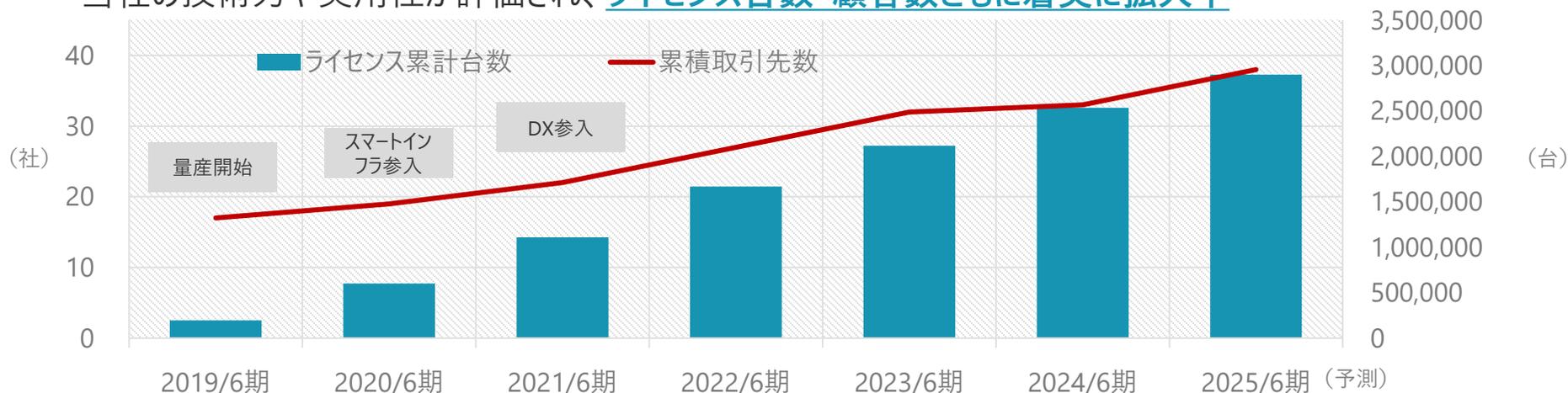
あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、

スマート社会の安全や安心、効率に貢献します



- 2019年からモビリティ関連の量産開始、現在までに累計ライセンス台数250万台を突破
- OEM、Tier1とのパートナーシップをはじめとした、複数顧客との共同開発を実施
- 2020年から、事業多角化を見据え、応用技術の活用によるスマートインフラ事業やDX事業に参入

→当社の技術力や実用性が評価され、ライセンス台数・顧客数ともに着実に拡大中



- 国内外の自動車メーカー量産案件に、当社技術提供済み
- 現在も複数のADAS及びDMS案件が量産開発中

量産中 案件	No.	1	2	3	4	5	6	7	8
	取引先	国内Tier1	BIPROGY(株)	海外Tier1	国内Tier1	国内Tier1	国内Tier1	国内Tier1	国内Tier1
	案件概要	ドラレコ用 ADAS	ドラレコ用 ADAS	車載カメラ用 ADAS・DMS	ドラレコ用 ADAS・DMS	ドラレコ用 ADAS・DMS	車載カメラ用 ADAS	ドラレコ用 ADAS・DMS	ドラレコ用 ADAS・DMS
	開始時期	2019	2019	2019	2020	2021	2021	2023	2023
全案件 契約継続中					→				

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

モビリティ事業を主軸に、スマートインフラ事業やDX事業まで幅広く展開

モビリティ事業

過去10年超にわたり、車載カメラ及びドラレコ向けの画像認識ソフトウェアを開発。低計算コストかつ優れた精度、カスタマイズ性により、多数のTier1、OEM、ドラレコメーカーに採用。



スマートインフラ事業

モビリティ事業で培った技術をインフラ向けに応用。スマートシティの実現に向けたインフラに関する様々なニーズに対応。



DX事業

競争力の高い物体検出アルゴリズムをベースに開発された高精度AI-OCRや、軽量でマルチモーダルなLLMにより、DXビジネスを拡大。

納品期限	令和3年 12月 1日	納品場所	〒170-6019 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイ 6019F		
商品コード	商品名	単位	数量	単価	金額(税込)
SRP12	ホワイトボード		20	¥1,000	¥2,200
4678Q	カーナビ	台	5	¥200	¥1,000
8W54H	A型バリケード	口	1	¥3,250	¥3,250
合計金額					¥6,750



ADASとDMSのラインナップが充実 大手取引先との提携により、更なる規模拡大を目指す

Point 1

「軽量」かつ「高精度」

- KITTI* ベンチマークテスト **歩行者検出第1位**
- ロ-エンドSoCで極力 **低演算コスト** でADAS機能の量産実装

Point 2

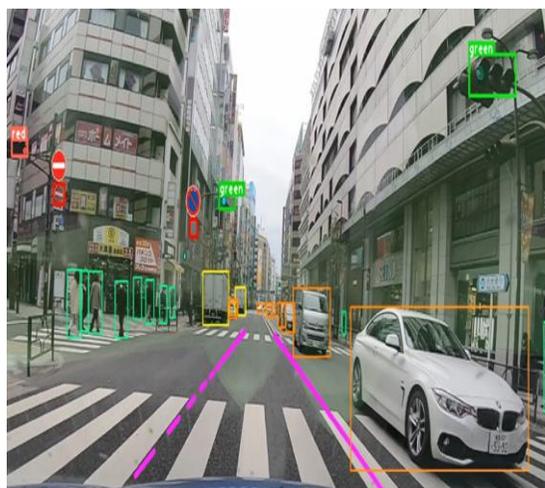
豊富なAIモデル、ビッグデータを保有

- 撮影画像等のビッグデータを有しており、少ない顧客データで **効率的な開発が可能**
- 顧客ニーズに応じ最適な技術提案と **カスタマイゼーション**

Point 3

多数の量産実績

- 累計ライセンス台数 **250万台** を突破
- 今後も複数案件の量産開始を予定



種類	検知対象	機能
ADAS	車両検知	前方車間距離
		衝突警報
		低速時追突警報
	車線検知	車線逸脱警告、ふらつき検知
	横断歩道検知	一旦停止無視
	歩行者検知	
DMS	信号検知	信号無視検知
	標識認識	速度超過警告
		一時停止不停止、信号無視検知
	目状態推定	居眠り運転検知
	顔向き推定	脇見運転検知
	危険動作検知	携帯電話操作/通話検知
喫煙検知		
	顔認識	運転手の顔認証

* 世界最大規模の車載用ベンチマークテスト「The KITTI Vision Benchmark Suite」2020年4月時点

- 当社のターゲットとする市場は自動運転レベル0～3
- 今後市場規模の拡大が確実に見込まれ、完全自動運転が浸透しても継続的な需要が見込める
- 「軽量」かつ「高性能」な強みを活かし、他社との差別化を図る

		説明	市場環境	市場予測 (2030年)
完全自動走行システム	レベル5	完全自動運転	世界的IT企業や自動車企業が巨額の投資を行って研究開発中。インフラの整備や法規制整備に課題があり、本格的な投入時期としては2030年代以降となる見込み。	72万台
	レベル4	特定条件下における完全自動運転 (例) 高速道路での完全自動運転		
準自動走行システム	レベル3	条件付自動運転 (例) 自動運転だが人の介入が必要	運転手の介入が必要なためドライバー監視システムの需要が急拡大。	625万台
	レベル2	特定条件下での自動運転機能 (例) 車間距離制御、自動駐車	当面はレベル2に対応した車両が自動運転車全体の市場を牽引。	6,015万台
安全運転支援システム	レベル1	運転支援 (例) 自動ブレーキ、車線維持支援	ADAS機能搭載の義務化が各国で進み堅実な市場拡大が見込まれる。	1,202万台
	レベル0	運転支援 (自動化なし) (例) 危険を知らせるアラート機能	安全運転意識の高まりから、ドラレコの高機能化や後付けADAS機能のニーズが高い。画像データの応用ニーズも拡大。	—

フィーチャの
ターゲット

*1 矢野経済研究所「自動運転システムの世界市場に関する調査を実施 (2022年)」

- 車室外だけでなく、車室内のセンシングにも注力
- ドライバーの不注意、眠気、危険動作を検知し、安全性向上に寄与
- 車室内の人の年齢・性別、感情、行動を認識・分析し、将来的には安全性だけでなく、健康、快適性、エンターテインメントを向上させる機能の実現に取り組む



顔認証

- ドライバーを識別し、シート位置を自動調整



危険運転検出

- 運転中の電話、飲食、喫煙を検出



よそ見検出

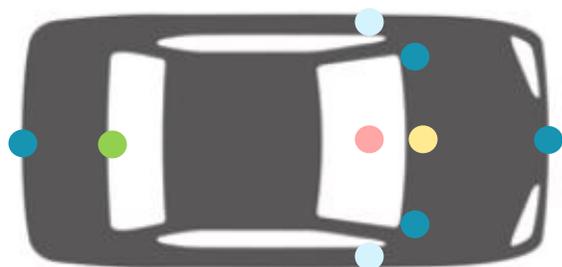
- 顔の向き等から運転中のよそ見を検出



居眠り検出

- 目の状態、顔の角度、あくび頻度等から居眠り状態を検出

■ 新車向け車載カメラ、ドラレコカメラのトータルソリューション



種類	カメラ	製品	当社 開発実績	当社 量産実績
新車向け	サラウンドカメラ	ADAS	○	○
	電子ミラー	ADAS	○	-
	車内カメラ	DMS	○	○
保有車向け (ドラレコ)	フロントカメラ	ADAS	○	○
	リアカメラ	ADAS	○	-
	車内カメラ	DMS	○	○

新車及び保有車向けにADAS、DMSを提供可能

スマートシティの実現に向け、画像認識技術の需要拡大

交通監視やインフラ制御など、複数の案件が進行中

Point 1

モビリティ技術の応用

- モビリティ事業で培った豊富な開発実績や技術・ノウハウをインフラ向けへ応用【ADAS技術】交通監視、インフラ制御、人流解析 etc.
- 【DMS技術】個人認証、デジタルサイネージ etc.

Point 2

プライバシーマスキング

- ビッグデータ解析にあたり取得・保管するプライバシー情報への配慮が必要
- 顔やナンバープレートに自動でモザイク処理する自動マスキング技術を保持

Point 3

高性能なエッジAI

- 高性能なAIモデルを低スペックなエッジデバイスに実装することが可能
- 解析後の映像データを保存せず、個人情報漏洩リスクを低減



独自開発したDX業務特化型生成AIソリューションを提供 様々な業界へライセンス提供中、新たな収益の柱を目指す

Point 1

活字/手書き文字を高精度で認識

- 文字領域を高精度な技術で自動検知
- 最先端の文字認識アルゴリズムを活用
- 大規模な学習データセットで学習

Point 2

事前設定不要な項目抽出機能

- 事前設定不要で指定した情報（品番、取引先名、金額など）を**自動抽出**
- 帳票内の**表形式部分**も自動で読取・出力可能

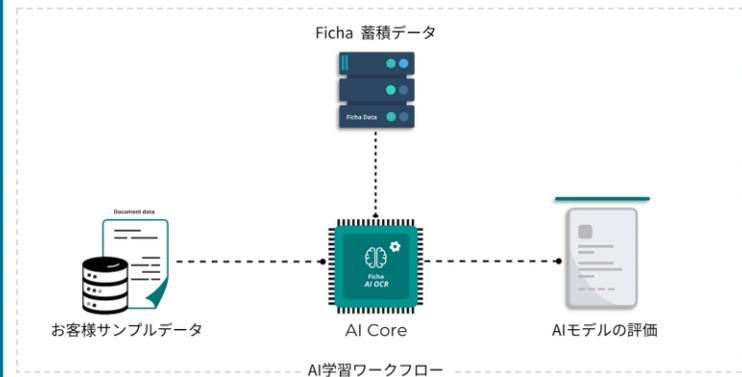
Point 3

顧客ニーズに応じたカスタマイズ

- 特有のフォーマットや非定型書類の精度向上のためAIモデルを**専用学習**
- 読取後のデータ加工、出力方法についても、ニーズに合わせたアプリケーション開発・設計が可能

顧客毎の専用カスタマイズ

- 顧客ごとに専用カスタマイズを行うことで、汎用モデルでは実現できなかった精度を実現



ライブラリ提供モデル

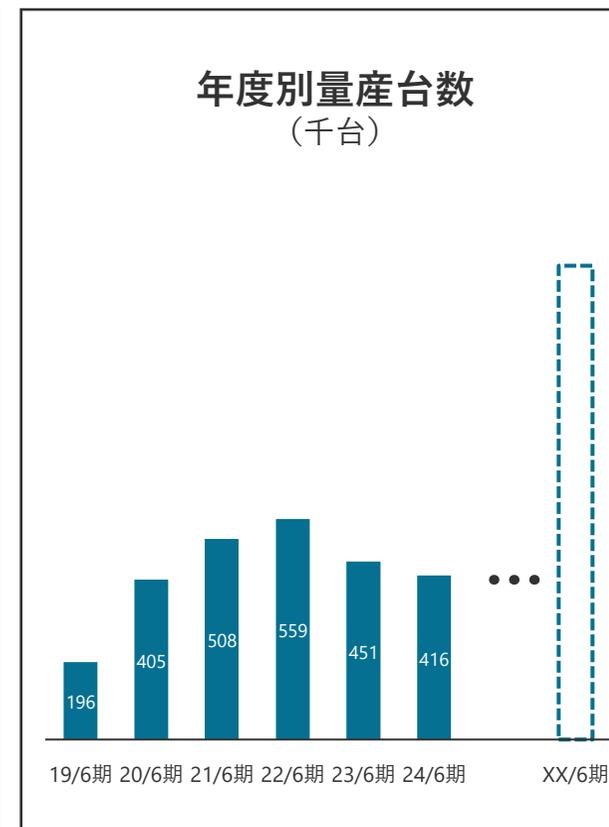
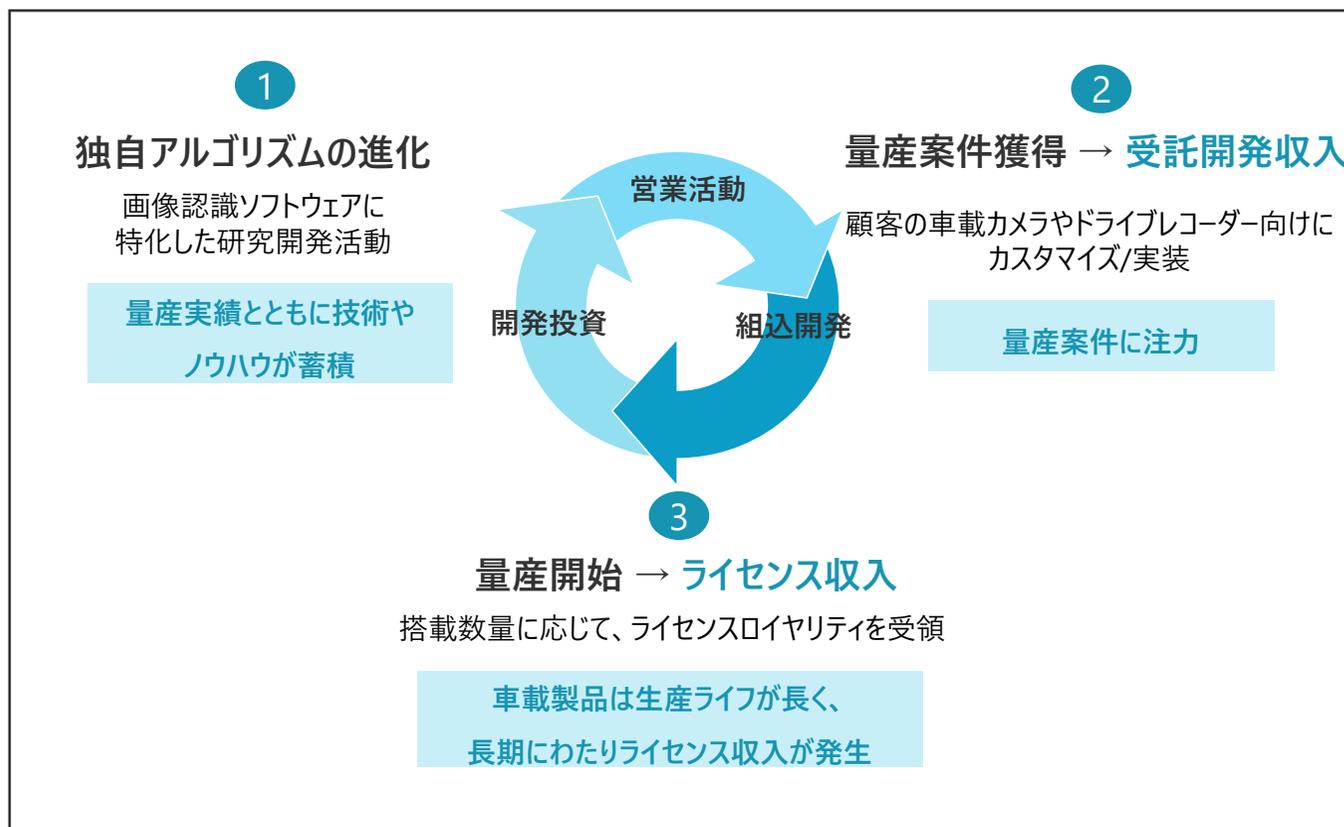
- オンプレミス環境で動作可能なため、セキュリティ要件の厳しい環境でも使用可能
- RPAや社内システムへのシームレスな連携が可能

収益構造



- 量産案件に注力した活動プロセスによって、長期ライセンス収入の実現を推進
- 多数のライセンス製品を積み上げていくことで、加速度的な成長が可能な収益構造
 - ✓ 当社売上高のうち、約30%がライセンス収入（ライセンス収入の利益率は100%）
 - ✓ 量産前提案件に注力し長期的なライセンス収入を狙う（量産案件の車載製品はライフサイクルが長い）

$$\text{売上高} = \text{受託開発収入} + \text{量産台数} \times \text{ライセンス単価}$$

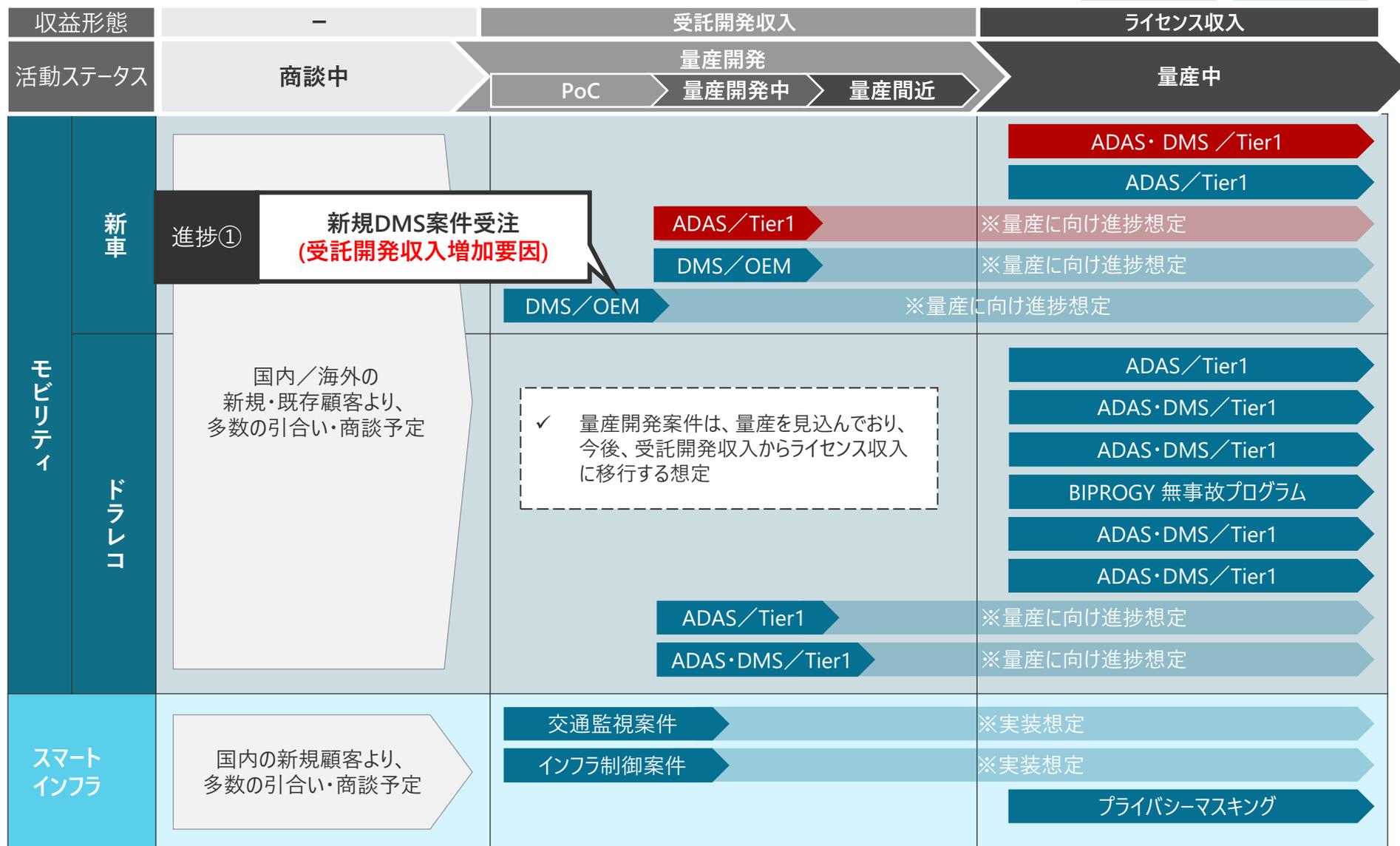


主な量産案件進捗状況

量産案件を複数開発中、長期的なライセンス収入の積み上げを実現

海外案件

国内案件



✓ 量産開発案件は、量産を見込んでおり、
今後、受託開発収入からライセンス収入
に移行する想定

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

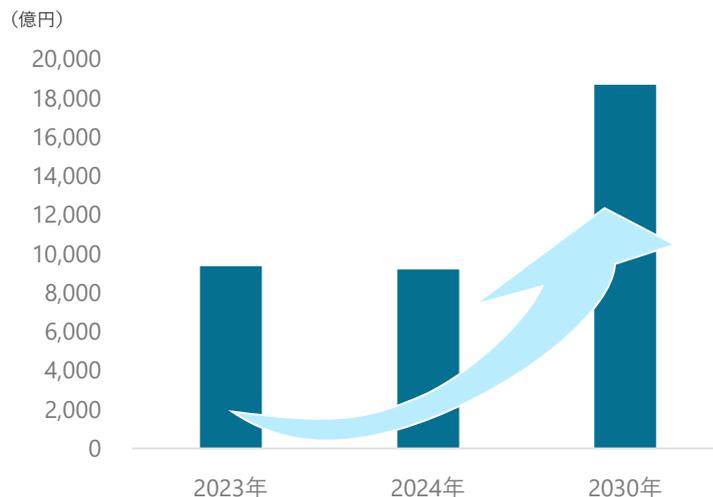
あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

外部環境

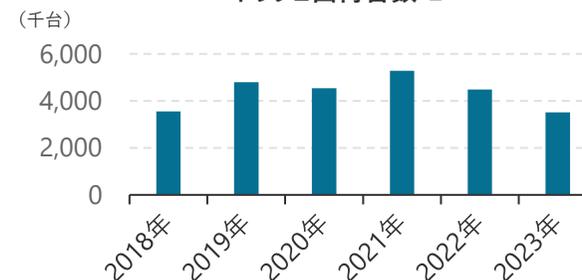
- 日米欧でAEB（自動緊急ブレーキ）の標準搭載が進み、中国市場においても急速に搭載車種が増加
- フロントだけでなく、サイドやリアにADAS用カメラを搭載するBEV（電気自動車）の投入が活発化
- ドラレコ付き自動車保険や法人向けのドラレコを使用したサービスが登場

市場見通し

ADAS/自動運転用センサの世界市場規模予測（カメラ）*1



ドラレコ出荷台数*2



- 2030年のADAS/自動運転用カメラの世界市場規模は、1.8兆円規模まで成長すると予測
- ドラレコについても、あおり運転等、他車の危険運転からの防衛意識の高まりから、出荷台数は堅調に推移

当社 活動進捗 <概要>

- ボッシュ株式会社と資本業務提携し、共同開発を開始
- 大手自動車メーカーとの中長期の共同開発契約の手續が進行中

*1 矢野経済研究所「2023年版 ADAS/自動運転用キーデバイス・コンポーネント」

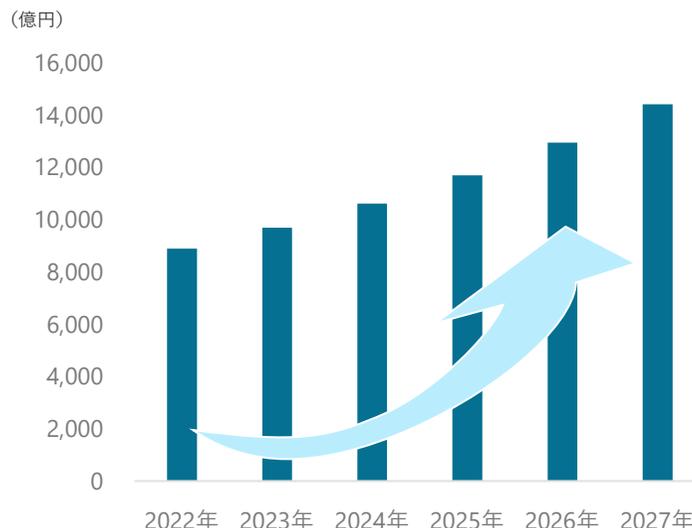
*2 一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）及び一般社団法人ドライブレコーダー協議会（JDRC）

外部環境

- 公共インフラの安全性に対するニーズは年々増加
- 政府の様々な取り組みと官民パートナーシップにより、市場の成長を後押し
- ネットワークの効率的な運用や、不正アクセスによる情報漏えい対策のために、クラウドだけでなく、エッジコンピューティングにも注目

市場見通し

スマートシティプラットフォームの市場規模予測（日本）*1



- 5Gの普及により、収集可能な情報の量と質の両面が拡大し、スマートシティプラットフォームの市場は、2027年度には1.4兆円規模となると予測
- アジア太平洋地域は、デジタルインフラ整備への関心が高まっていること、経済発展の著しいインドや中国などにおいて、政府がスマートシティ開発に多額の投資を行っていることから、世界第2位の市場シェアを占めるとともに、最も速い成長率が期待されている地域でもある

当社 活動進捗 <概要>

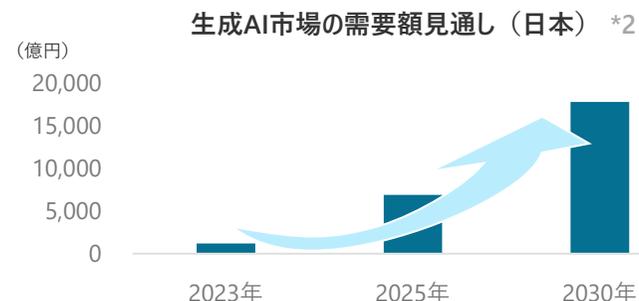
- 複数案件の量産に向けた開発が進行中
- プライバシーマスキングライセンス提供開始

*1 株式会社野村総合研究所「ITナビゲータ-2022年度版」

外部環境

- 昨今の労働力不足・人材不足を背景として、働き方改革やDXの推進を通じた業務変革に取り組む企業が急増
- AIによる認識精度向上に伴い、OCR導入が拡大
- 生成AI（LLM）の登場により、文章の意味を理解した複雑な処理が可能に

市場見通し



- 自然言語処理技術の進歩や、画像データ等を組み合わせたマルチモーダルLLMにより、技術革新が加速し、より高度な機能や性能が実現。企業におけるAI活用ニーズの高まりにより、プラス成長を後押し

当社 活動進捗 <概要>

- 複数社へAI-OCRライブラリ、サービスを提供中
- オンプレミス提供かつ専用カスタマイズ対応により、他社との差別化図る
- 生成AI技術を活用し、更なる機能向上に向けた研究開発を実施

*1 株式会社矢野経済研究所「BPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）市場に関する調査を実施（2023年）」（2023年11月14日発表）

*2 一般社団法人 電子情報技術産業協会JEITA 報道資料（2023年12月21日発表）

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

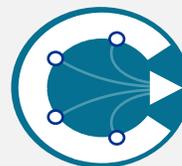
あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

フィーチャは“お客様の中長期開発パートナー”として、お客様のビジネス目標の実現や中長期的な技術開発に貢献します



軽量・高性能な 画像認識技術

世界規模のベンチマークテストで1位
を取得した高い技術力×ローエンド
SoCでも搭載可能な実装性



10年以上のADAS 量産開発経験とノウハウ

多数の量産開発実績、蓄積された
ノウハウを駆使し、信頼性の高いソ
リューションをご提供



顧客ニーズに応じた 迅速な対応力

長年培ってきた経験からお客様の
課題・ニーズに対して最適な技術提
案とカスタマイゼーションが可能

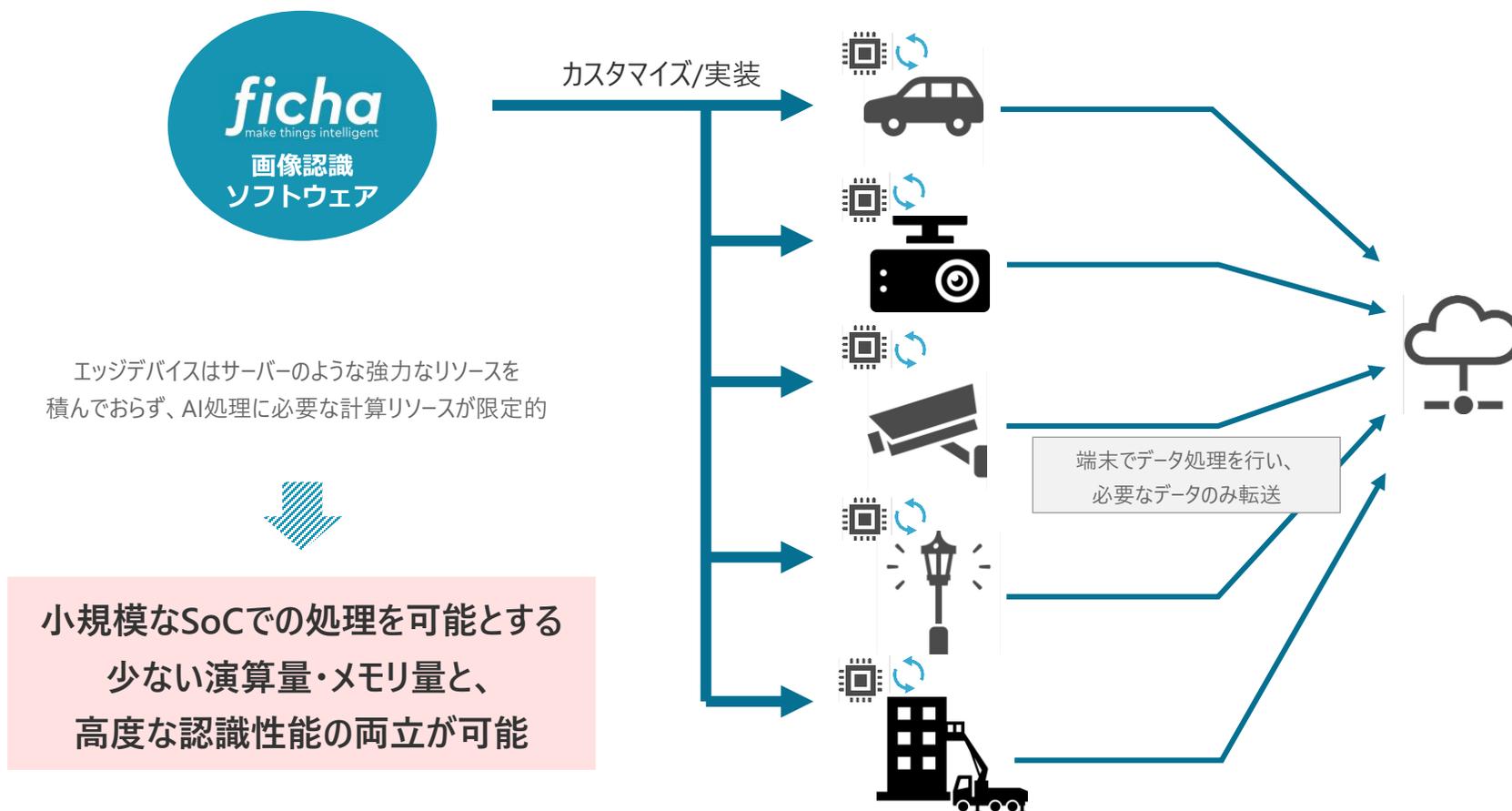


多国籍なアルゴリズム、 組込エンジニアチーム

多国籍かつ多様性に富んだエンジ
ニアチームを擁しており、世界中から
優秀なエンジニアが集結

① 軽量・高性能な画像認識技術 (1/2)

- 独自のアルゴリズムにより、精度を落とさず軽量化を実現
- 高性能なモデルを低スペックなエッジAIデバイスに実装することが可能
- 自社で大規模なデータを保有し、少ない顧客データで高性能なモデルを開発可能

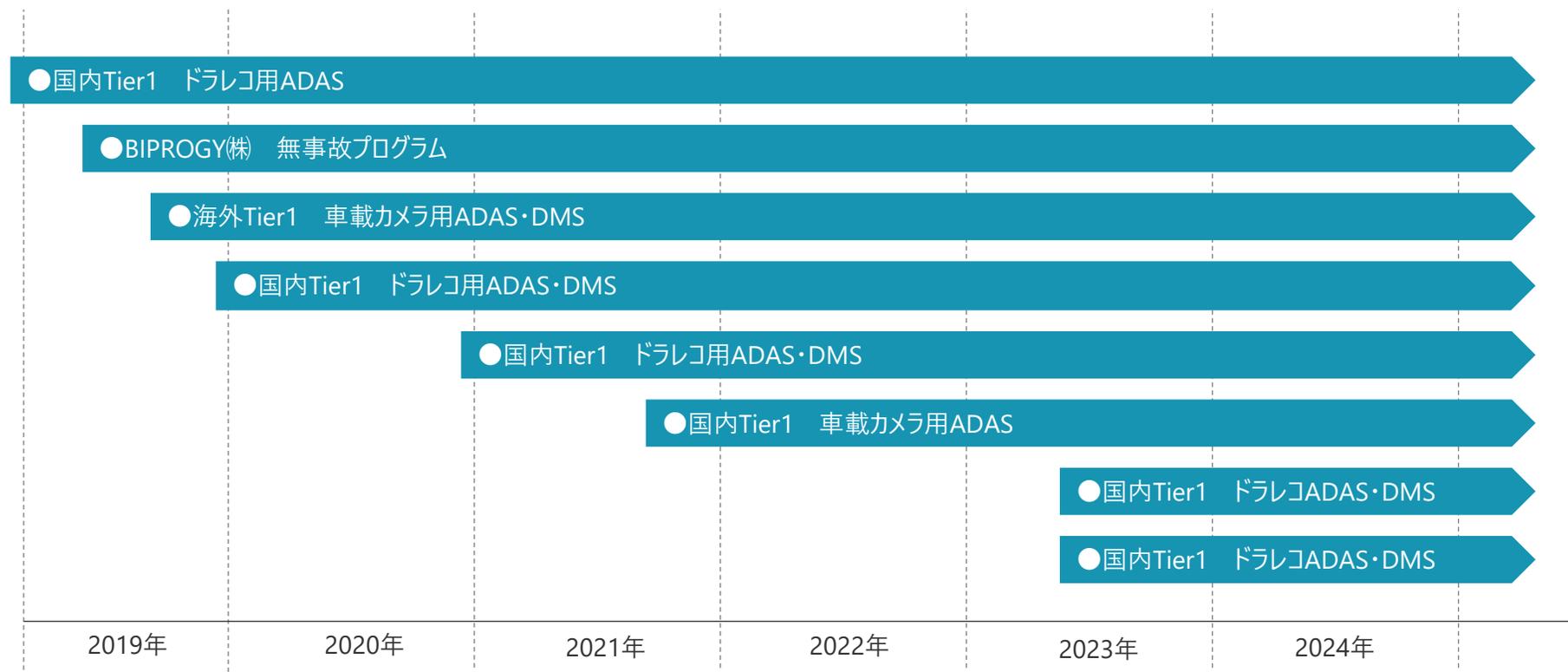


■ エッジAIのメリット

	クラウドAI	エッジAI
1 遅延	 高遅延 クラウド上でデータ処理が行われるため遅延が発生	 低遅延 AI処理がエッジでリアルタイムで行われる
2 コスト	 高い 通信コスト、サーバーームのランニングコストが高い	 安い 通信コストとAI処理コストを節約
3 消費電力	 大きい 大規模サーバーームを使用するため消費電力が大きい	 小さい 低消費電力チップでAI処理が行われる
4 セキュリティ リスク	 高い データをサーバーに転送するためプライバシーに課題	 低い データをサーバーに転送しないためリスク低減

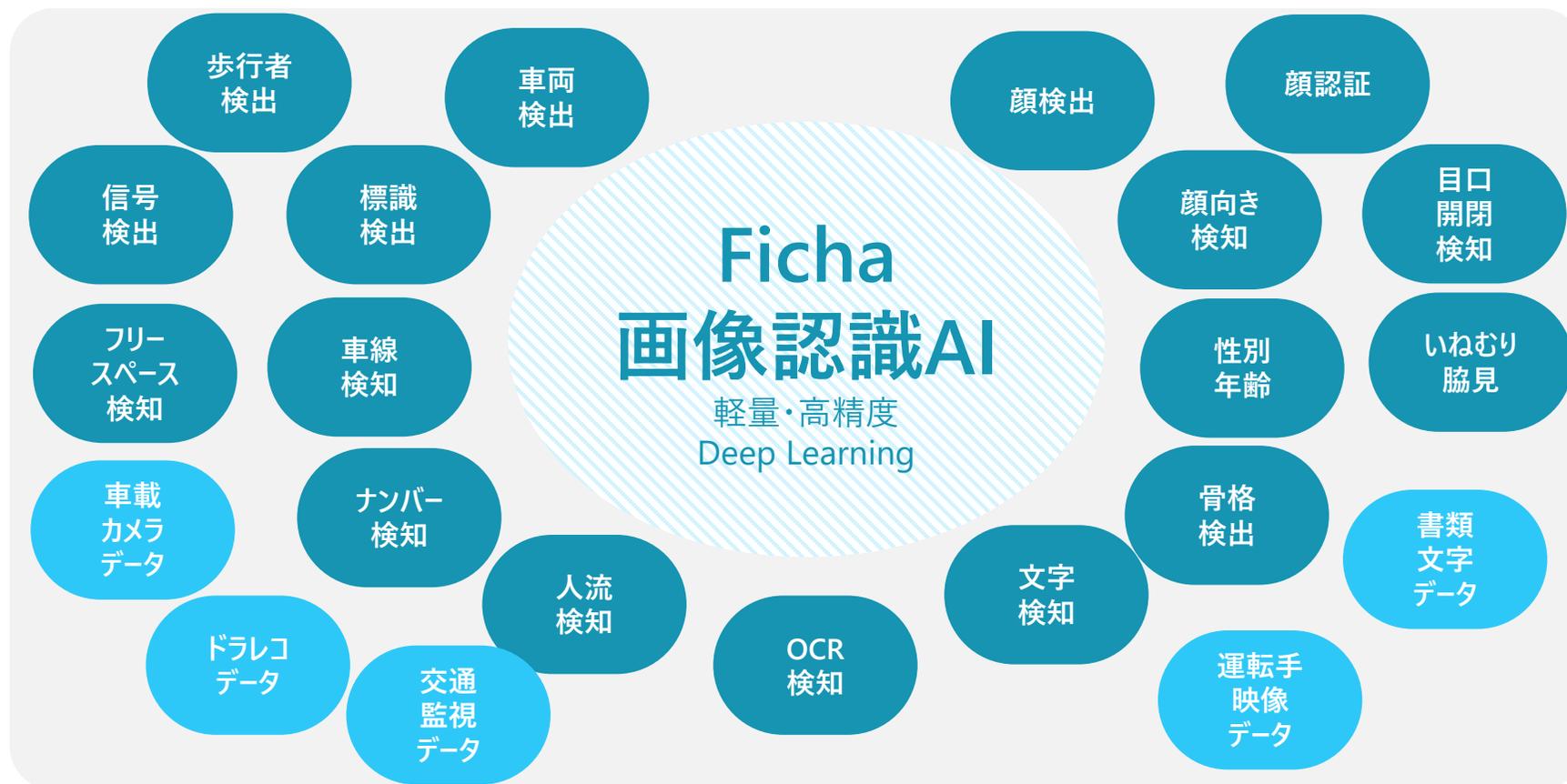
② 10年以上のADAS量産開発経験とノウハウ

- BIPROGY(株)の無事故プログラムサービスに使用されるドラレコに、信号無視、一時停止不停止、速度違反検出のソフトウェアを搭載し、2019年2月よりサービス開始
- 歩行者・車両検出及びDMSソフトウェアが国内外Tier 1の自動車メーカーの製品に搭載
- 多数の量産開発実績、蓄積されたノウハウを駆使し、信頼性の高いソリューションを提供



③ 顧客ニーズに応じた迅速な対応力

- 長年培ってきた経験から、お客様の課題・ニーズに対して、最適な技術提案とカスタマイゼーションが可能
- 顧客との信頼関係を構築し、中長期戦略に沿った新規技術の共同開発を実施
- 豊富なAIモデル、ビッグデータを保有しており、少ない顧客データで効率的な開発が可能



④ 多国籍なアルゴリズム、組込エンジニアチーム

- 正社員人員全体に占めるエンジニアの割合は約 8 割で、世界中の優秀なエンジニアで構成
- AIアルゴリズムエンジニア、組込エンジニアやアノテーションチームを含む、すべての開発スタッフを自社採用
- 一貫した完全内製開発プロセスにより、迅速かつ柔軟な対応が可能



多国籍なエンジニアで構成



1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

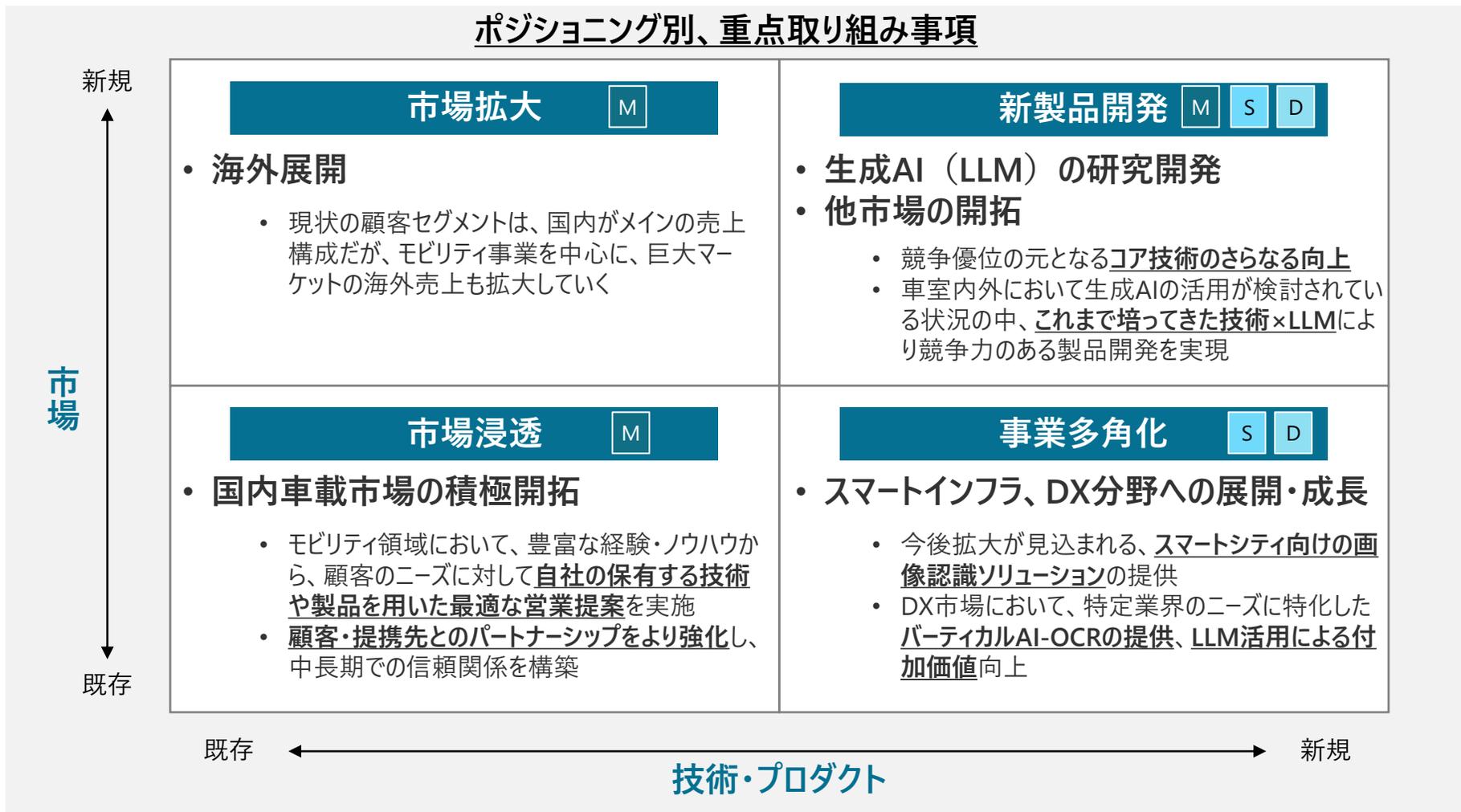
今後も拡大する画像認識ソフトウェア市場において、当社の技術力を通じて、開発/販売を加速し、事業拡大と高い成長性を継続

モビリティ事業
M

スマートインフラ事業
S

DX事業
D

ポジショニング別、重点取り組み事項



2024年6月期の振り返りと2025年6月期業績予想

(2024年6月期)

- 受注見込みであった大型案件の一部が大幅に遅延したことにより、受託開発収入が当初予想より減少
- 前期と同様、一括売上計上の使用権ライセンスを見込んでいたが、契約内容の変更により、ライセンス収入が減少

(2025年6月期)

- 受託開発収入は、大手取引先との共同開発案件により増収見込み
- ライセンス収入は、一部取引先においてボリュームディスカウントによる単価減少が見込まれることから減収見込み
- 車載向けやDX向け業務特化型の生成AI技術への研究開発投資を加速

(単位：百万円)

	2024年6月期		2025年6月期	
	当初予想	実績	予想	前期実績比
売上高	580	494	558	+12.9%
うち、受託開発収入	349	316	390	+23.1%
うち、ライセンス収入	231	177	167	△5.3%
営業利益	22	△3	2	—
親会社株主に帰属する当期純利益	18	△7	1	—

- 自動車部品世界シェア最大手であるボッシュとの資本業務提携を発表
- 両社グループの関係を一層深化させ、長期的な戦略パートナーシップを構築
- 当社からボッシュへ、先進運転支援システム（ADAS）向け画像認識分野の専門的なエンジニアリングサービス及び技術を提供
- 開発パイプライン拡充による長期的な収益基盤の確立を図る

■ 第三者割当増資により調達した資金の投資計画

(単位：百万円)

資金使途	調達額	既支払額	支出予定時期及び見通し
事業拡大のための採用費 及び人件費	126	43	2026年6月までに充当予定
開発環境構築のための 設備投資	50	52	2024年6月までに充当
計	176	95	

(※) 既支払額は2024年6月末時点

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

経営において認識される主なリスク

以下には、当社が経営においてリスク要因となりうる主な事項について記載しております。（有価証券報告書「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照下さい。）

認識するリスク	リスクの内容	顕在化する可能性/時期	影響の程度	対応策
市場動向について	当社グループは、車載カメラ及びドライブレコーダー用画像認識ソフトウェアの開発を主力事業としております。今後、新たな法的規制や業界団体による規制の導入、その他予期せぬ要因等により、顧客企業におけるソフトウェア開発の外部委託の縮小や内製化若しくはニーズの変化、新車販売動向の低迷等、市場規模が縮小する動きがみられた場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。	中程度 /中長期	中	常に市場動向を把握し、市場動向に応じた柔軟な対応を行うとともに、他市場への展開を積極的に進めることでリスクの低減を図ってまいります。
技術動向について	当社グループの技術革新が想定どおりに進まない場合や、予想以上の急速な技術革新や代替技術・競合商品の出現、依存する技術標準・基盤の変化等により、当社グループの製品が十分な競争力や付加価値を確保できない場合等には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。	低程度 /中長期	大	優秀な人材の採用や子会社を含めた研究開発に積極的に取り組んでおります。また、常に市場動向を把握し、技術革新への対応を講じることにより、今後も競争力のあるサービスを提供できるようリスクの低減を図ってまいります。
ライセンス収入の変動について	当社グループのライセンス収入は、当社ソフトウェアが搭載された製品の製造、販売または使用に伴い認識されますが、製品の製造、販売または使用は、顧客の販売計画や営業活動に依存するため、顧客の販売計画が変更等された場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。	高程度 /中期	中	当社ライセンス製品の採用件数を増やしていくことで、特定のライセンス製品の販売状況の変動によるリスクの低減を図ってまいります。
特定顧客への依存度について	当社グループの売上高は、特定の主要顧客に依存しており、2024年6月期においては、売上高上位3社に対する売上高が売上高全体の71.2%を占めております。これら主要顧客との取引関係や自動車業界の動向に変化が生じた場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。	中程度 /中期	中	主要顧客との良好な関係の維持に努めるとともに、他市場を含めた新規顧客の獲得を積極的に進めることでリスクの低減を図ってまいります。

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

車載カメラ・ドライブレコーダー向け画像認識ソフトウェアソリューション

精度と実装性を兼ね備えたアルゴリズム

画像認識ソフトウェア技術

ディープラーニング

マルチモーダルLLM

画像処理

+

車載用ソフトウェア特有のノウハウ

+

LSIへの実装技術



安全、安心、効率化に貢献する多様なソフトウェアラインナップ

モビリティ検知認識

歩行者検出
縁石検出
信号認識
四輪車検出

二輪車検出
標識認識
車線検出
横断歩道検出
フリースペース検出



顔検知認識

顔特徴点検知
顔検知
顔認証
顔属性推定
(マスク、眼鏡、性別、年齢、表情)

顔向き推定
視線推定



HMI*検知認識

*ヒューマンマシンインターフェイス

ジェスチャー認識
危険動作認識
(喫煙、ドリンク、電話)

全身姿勢推定



Connected、Autonomous/Automated、Shared、Electricなどの新しい領域（CASE）において技術革新が進む中、モビリティに関連する画像認識技術をソフトウェアで提供

		Ficha画像認識AIの活用(例)
CASE	Connected	<p>プライバシー保護を重視した先進的かつ安全なモビリティインフラの実現</p> <ol style="list-style-type: none"> 道路上のインフラと車両が相互に映像情報を共有することで、事故を未然に防ぐことや、インフラの制御に活用 ドラレコが道路上の交通状況をリアルタイムで記録し、クラウドにアップロードすることで前方の交通状況や渋滞情報を即座に提供 プライバシーへの配慮が必要なため、クラウドにアップロードされた映像に、自動で顔やナンバープレートをマスクング処理
	Autonomous Automated	<p>センサーフュージョンとドライバーモニタリングで安全なモビリティを実現</p> <ol style="list-style-type: none"> 自動運転車のセンサーフュージョン。車両周囲のカメラ画像をリアルタイムで解析し、他センサーと組み合わせることで環境認識を向上させ、自動運転車の制御に活用。 ドライバーモニタリング。運転中のドライバーの状態をカメラで監視し、注意力の低下や疲労を検知。必要に応じて警告や安全機能の介入を行う。
	Shared	<p>インテリジェントなカーシェアリングの実現</p> <ol style="list-style-type: none"> カーシェアリングの利便性向上。カメラによる顔認識技術を使用して、予約者が正規の利用者であることを確認し、車両の開錠プロセスを自動化。 共有車両の状態モニタリング。カメラで車内を監視し、車両のクリーニングやメンテナンスが必要な場合に自動的にアラートを発信。
	Electric	<p>効率的な充電ステーション管理の実現</p> <ol style="list-style-type: none"> 充電ステーションの管理。カメラで充電ステーションの利用状況を監視し、混雑状況や利用者の滞在時間を把握して、充電インフラの最適な配置を行う。

- ・本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意下さい。
- ・これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。
- ・また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。
- ・当資料のアップデートは本決算の発表時期を目途として開示を行う予定です。なお、次回の発表は、2025年9月頃を予定しております。